

総合戦略 2016 の作成について

(各構成員の意見に基づく、事務局まとめ)

目指すべき姿

子供から高齢者まで全ての住民が安心して活動的に過ごせる住まい、街であると共に、誰もが積極的に社会参画ができる社会

目指すべき姿の実現に向けて、すべての研究開発施策は、現場ニーズを適切にとらえた上で、新規技術の開発にこだわらず、既存技術の応用や、低コスト化による汎用化により推進することが必要である。また、開発される技術の効果や安全性の確認、及び利用者の訓練も含め、社会実装に向けた具体的な取り組みなども併せて検討する必要がある。

他機関（省庁）の所有のものを含め既存のインフラや各種データの効果的活用も含め、高付加価値な技術開発を推進していく。

立案にあたっての包括的視点

各府省庁において、「科学技術イノベーション総合戦略2016」に基づき、施策の立案を行うにあたって、「地域における人とくらし（地域包括ケアの推進）」分野における基本方針として下記のような視点を踏まえ各施策を検討してみてはどうか。

<共通項目>

- 1 連携による相乗効果の増大を図るとともに、事業の重複、抜け等を是正し、効率化を図るために、年齢や、業態、サービス別間の積極的情報共有
- 2 既存の設備整備、機器等を汎用的に利用する等による効率的な活用
- 3 情報提供者等に対して、情報、サービス等の直接的利益、及び、安全性の向上、品質の向上等の間接的な利益の還元

<個別項目>

- 1 有用なビッグデータとするためのデータベース構築に向けデータフォーマットの標準化など、データの統合に向けた研究開発
- 2 解析技術（AI）等の開発においては、個人及び集団における現状把握だけでなく、将来予測ができる研究開発
- 3 倫理、社会的なニーズに対応できる技術開発（ハードウェア、ソフトウェア、理論含む）
- 4 サービス提供者等の負担を軽減するための研究開発
- 5 自立を支援し、社会参画を促すための住居、街づくり、社会システム構築に係る研究開発

取組（具体例）

1. ICTによる健康・医療・介護情報の利活用
 - ・ 個々人の検診・医療・介護等のデータ統合・利活用に資する技術
 - ・ 医療資源を効率的・効果的に利用するための技術
 - ・ IoT、センサー機器内のメモリ等に保持される計測データの自動的消去技術
 - ・
2. 介護・看護支援及び自立（自律）支援機器の開発
 - ・ 要介護者等（認知症含む）に対する自立（自律）支援技術
 - ・ 介護や看護の従事者負担を減らす支援技術
 - ・ 作業効率の向上を図るための新素材技術
 - ・
3. 人にやさしい住宅・街づくりに資する研究
 - ・ 快適で安全な居住空間作りのための住環境や生体情報把握技術
 - ・ 全ての人に安全でバリアフリーな街づくりに資する研究
 - ・